

本多家廟屋

これらの建造物は、徳川時代（1603～1867 年）に書寫山圓教寺を後援した武家の本多一族の墓である。姫路城の藩主になった 2 年後の 1619 年、本多忠政（1575-1631）は圓教寺を訪れた。そこで、当時軍司令官だった豊臣秀吉（1537-1598）の占領によって荒廃した寺院の様子を見て衝撃を受けた。忠政は寺院が昔の栄光を取り戻すための再建募金活動を開始した。そして忠政のおかげで、今なお非常に多くの圓教寺の中心的建造物が残っている。忠政の父・忠勝とその後継者 3 名が祀られている。（この中で最も）長老の忠勝は、徳川幕府を開いた徳川家康（1543～1616）が最も信頼した武将であった。

本多一族の 5 人の後継者たちはそれぞれ、同じ正方形の塔に囲まれた石造りの五輪塔に祀られている。ピラミッド型の大きなどっしりとした瓦屋根は、緩やかに上に反っていて、球形の頂華がのっている。5 つの建物はすべて兵庫県の文化財に登録である。

敷地内にある 2 つの石塔は、忠政の息子である本多忠刻（ただとき）と孫の幸千代の墓である。忠刻の石塔の後ろには、忠刻の死後に殉死した三人の武士の墓がある。殉死は主人の死後も続けて忠誠を誓うための行為で、自らの命を捧げるのである。